

学生海外派遣プログラム実施報告書

所属：創成科学研究科 地球圏生命物質科学系専攻 2年

氏名：福澤 洋佑

派遣期間：2018年3月4日～2018年3月11日

派遣先：台湾師範大学

今回、このプログラムのおかげで学びを目的とした海外留学を経験することができました。大学生活の中で留学というものは私とは縁がないと諦めていたため、とても貴重な体験となりました。本プログラムを支えてくださった台湾師範大学と山口大学そして関西学院大学の皆様に感謝いたします。報告書には現地での生活、内容、総括を記します。

台湾師範大学でのプログラムは主に学部生を対象としたもので、情報システムや化学、そして地球科学までの様々な分野の授業を受けるというものでした。すべての授業が英語で行われ、授業の難易度としては決して高くなく、学生参加型に重きを置いていました。以下にプログラム全体のスケジュールを示します。

| 日程 | 内容 |
|-----|--------------------|
| 1日目 | オリエンテーション・キャンパスツアー |
| 2日目 | コンピュータサイエンス・数学 |
| 3日目 | 台南へ移動・フィールドトリップ |
| 4日目 | マングローブ林・化石発掘・水族館 |
| 5日目 | 台北へ移動 |
| 6日目 | 生物学・化学 |
| 7日目 | 小さな森の散策・プレゼン発表 |
| 8日目 | 帰国 |

すべての日程において現地の TA が私たちの面倒を見てくれました。台湾の学生の方々は卒業した方も手伝いに駆けつけてくれていました。話しやすく接しやすく、初めての日本語が通じない生活でしたがとても過ごしやすかったです。

1日目は台湾師範大学を見学して廻る時間をいただきました。あちらの学生の方が、プロのガイドのように一生懸命に説明をしていただき、その日の夜にはもう簡単に構内の移動ができました。2日目と6日目は基本的に座学のようなスタイルでしたが、数学ではパズルのようなものを用いた数字の不思議を、体感しながら学んでいきました。生物の授業では蛇の生態や、実際に巨大な蛇を触ったりと、すべての講義でわくわくと好奇心が止まない

生活を過ごしたと思います。3日目から5日目までのフィールドトリップは本当に一生の思い出になりました。地震の多い地域で過ごす人々が、なぜその地を離れようとしないのか。どうしたら家屋の崩れや人的被害を失くせるのか。どういう成り立ちから脆い地盤ができているのかななどを、実際にその地域を見て廻り土地のつくりなどから考察をするディスカッションも行いました（図1）。すべてが英語を用いての会話でしたが、台湾の方々が本当に一生けん命に伝えようとしてくれました。あんなに人の発する言葉に集中して過ごした1週間は今までにありませんでした。彼らの気持ちが常に伝わってくるため、応えなければいけないと思う自分がいました。

台湾の方々は本当にやさしい方ばかりでした。質問ひとつにも伝わるまでずーっと考え、全力でした。人生の中で、こういった体験はあまりないと思います。今だからこその世界に飛び出せる時間があります。このような機会をぜひ活用してほしいと思います。



図1 ディスカッション風景



図2 集合写真と修了証書をもらう私